

授業科目	* 生活援助技術論演習				単位	2		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11204J		
開講年次	1	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-1 DP4-2			
担当教員	梶原 江美、隅田 由加里、金山 正子、長崎 恵美子、中島 紀江							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員は、病院での臨床経験と大学での看護学教育の経験を生かして、看護の対象者である生活者としての人間が日々行っている生活行動の意義と特徴を示し、適切な看護を実践するうえで必要な要素について概説する。</p> <p>ここでは、普段あまり気にせずに行っている自分の日常生活行動を振り返りながら、生活者としての基本的ニーズに気づくための態度を養う。その上で、疾患や怪我、障害などの何らかの原因により、自分で日常生活行動が行えない、制限がある人への援助方法を学修する。具体的には、既習科目である看護援助論演習を基にして、「睡眠・休息の援助技術」、「活動の援助技術」、「清潔・衣生活の援助技術」、「食事の援助技術」、「排泄の援助技術」について、講義や看護実習室での演習を通して、基本的な知識・技術・態度を修得する。本科目で取り扱う日常生活への援助は、対象者の傷病状況や自立度、意欲など様々な要因が絡み、援助を行う場所や保有物品などによっても援助する方法が異なる特徴をもつ。そこで、演習では、各単元の援助を実施する場合の一つの方法を提示し、看護技術の原理・原則を踏まえた根拠に基づく看護実践を目指していく。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康的に日常生活を送るうえでの生活行動について自分の行動を振り返ることができる。</li> <li>健康的な日常生活行動を促す看護援助について必要な基本的知識を説明できる。</li> <li>日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助の必要性と適切な方法について、既習の知識や科学的根拠を活用しながら論理的考えを整理することができる。</li> <li>日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助について、ひとつの方法を通して安全・安楽・自立の視点で実施できる。</li> <li>看護援助が必要となった対象者の気持ちを理解し、看護専門職者としてふさわしい誠実な態度で講義に臨むことができる。</li> <li>課題や演習を通して、チーム医療の基本となるルールの順守および連絡・報告、建設的な意見交換ができる。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	50				10	5	65	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10				10	5	25	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)						5	5	
態度(DP4-2)						5	5	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				

<p>1. 自らの生活行動を想起して援助に生かすことができる。</p> <p>2. 日常生活行動を促す看護援助に必要な基本的知識を修得する上で、意義、目的、方法と留意点、疾患や状況に合わせて適応、禁忌、観察項目などを追加するなど理解を促す工夫をして整理できる。</p> <p>3. 日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助の必要性和適切な方法について、既習の知識や科学的根拠を活用しながら複数の場合を考慮して、論理的に考えを整理して記述することができる。</p> <p>4. 日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助について、援助を受ける人の気持ちを汲み取りながら、安全・安楽・自立の視点で実施できる。また、不測の事態への対応を臨機応変に実施できる。</p> <p>5. 看護専門職者としてふさわしい誠実な態度について複数場面における臨機応変な対応を視野に入れて考えることができ、授業に生かすことができる。</p> <p>6. 課題や演習を通して、ルールの順守および連絡・報告、建設的な意見交換ができる。</p>	<p>1. 自らの生活行動を想起して援助に生かすことができる。</p> <p>2. 日常生活行動を促す看護援助に必要な基本的知識を修得する上で、意義、目的を整理し、方法と留意点について、安全・安楽・自立の観点から原理・原則に沿って整理することができる。</p> <p>3. 日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助の必要性和適切な方法について、既習の知識や科学的根拠を活用しながら演習事例に沿って、論理的に記述することができる。</p> <p>4. 日常生活行動に支障が生じた場合の看護援助について、援助を受ける人の気持ちにも目を向けながら、安全に実施できる。</p> <p>5. 看護専門職者としてふさわしい誠実な態度について考え、授業に生かすことができる。</p> <p>6. 課題や演習を通して、決められたルールを守り、連絡・報告ができる。また、その修正行動がとれる。</p>			
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>【本科目のガイダンス】</p> <p>【睡眠・休息の援助技術】</p> <p>睡眠と休息に関する基礎知識</p> <p>[講義:梶原]</p>	講義	<p>予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読-第4章 活動・休息援助技術、②普段の動きを見つめる(眠る)</p> <p>復習:講義内容の整理</p>	90
2	<p>【活動の援助技術】</p> <p>活動に関する基礎知識(既習科目(看護技術論演習)の復習を含む)</p> <p>褥瘡予防に関する基礎知識(既習科目(看護技術論演習)の復習を含む)</p> <p>[講義:梶原]</p>	講義	<p>予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読-第4章 活動・休息援助技術、②形態機能学の復習</p> <p>復習:講義内容の整理-第8章 創傷管理技術) C(褥瘡予防)、第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 A(体位保持)</p>	90
3	<p>【活動の援助技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位から端坐位への体位変換</li> <li>・車いす移乗</li> <li>・移送(車いす・ベッド)</li> </ul> <p>[演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]</p>	演習	<p>予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(起き上がり立ち上がり、方向転換)、③形態機能学の復習</p> <p>復習:①演習の要点整理、②ストレッチャーの移送の要点と歩行介助の要点を整理、③自己練習</p>	90
4	<p>【活動の援助技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位から端坐位への体位変換</li> <li>・車いす移乗</li> <li>・移送(車いす・ベッド)</li> </ul> <p>[演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]</p>	演習	同上	90
5	<p>【清潔・衣生活の援助技術】</p> <p>清潔・衣生活に関する基礎知識</p> <p>[講義:梶原]</p>	講義	<p>予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読-第6章 清潔・衣生活援助技術、②形態機能学の復習</p> <p>復習:講義内容の整理</p>	90

6	【清潔・衣生活の援助技術】 清潔の技術を習得するための事前演習 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	講義・演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(顔を洗う) 復習:看護技術の根拠、演習に向けた自己練習	90
7	【清潔・衣生活の援助技術】 ・清拭 ・足浴 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(服を脱ぐ、身体を洗う・拭く、服を着る)、③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
8	【清潔・衣生活の援助技術】 ・清拭 ・足浴 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
9	【清潔・衣生活の援助技術】 ・清拭 ・足浴 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
10	【清潔・衣生活の援助技術】 ・清拭 ・足浴 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
11	【清潔・衣生活の援助技術】 ・洗髪 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(ブラッシング、髪を洗う、髪を乾かす)、 ③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
12	【清潔・衣生活の援助技術】 ・洗髪 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
13	【清潔・衣生活の援助技術】 ・洗髪 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読 -第2章 食事援助技術、②形態機能学の復習 復習:講義内容の整理	90
14	【清潔・衣生活の援助技術】 ・洗髪 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
15	【食事の援助技術】 ・食事に関する基礎的知識 [講義:梶原]	演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(食べる)、③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
16	【食事の援助技術】 ・食事に関する基礎的知識 [講義:梶原]	演習	同上	90
17	【食事の援助技術】 ・食事介助 【清潔の援助技術】 ・口腔ケア [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(歯を磨く)、③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
18	【食事の援助技術】 ・食事介助 【清潔の援助技術】	演習	同上	90

	・口腔ケア [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]			
19	【排泄の援助技術】 [講義:梶原]	講義	予習:①教科書(基礎看護技術Ⅱ)の該当部分の通読 -第3章 排泄援助技術、②おむつでの排尿体験、③形態機能学の復習 復習:講義内容の整理	90
20	【排泄の援助技術】 [講義:梶原]	講義	同上	90
21	【排泄の援助技術】 ・陰部洗浄とおむつ交換 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①動画視聴、②普段の動きを見つめる(排尿する、排便する)、③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
22	【排泄の援助技術】 ・陰部洗浄とおむつ交換 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
23	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践(計画立案) [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①動画視聴、②排泄の援助を受ける時に看護者に望むこと、③形態機能学の復習 復習:看護技術の根拠の整理、自己練習	90
24	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践(計画立案) [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
25	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践(シミュレーション) [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	予習:①各単元の知識と技術の要点整理、②事例に基づいて、訪室から退室迄の看護援助を関わりを含めて考える 復習:自分の看護援助の振り返り、自己練習	90
26	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践(シミュレーション) [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
27	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
28	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	同上	90
29	【統合演習】 事例に合わせた看護技術の実践 [演習:梶原(橋本)/ 隅田 / 長崎 / 中島 / 金山]	演習	実技試験の結果についてフィードバックを行う。該当者は、再度技術の練習をして再チェックに臨む	90
30	生活援助技術論演習のまとめ(知識・技術) [講義:梶原]	講義	予習:事前配付の国家試験問題を解く 復習:定期試験に向けて	90
理解に必要な予備知識や技能	この科目は、みなさんが日頃行っている日常生活行動と専門的知識、根拠を踏まえた技術を結び付けて実践する科目です。前期の看護技術論演習や形態機能学等の関連科目とのつながりも密接で、看護を学んでいる実感、大変さの中にも面白さ、奥深さを感じることができる科目です。ぜひ、次は臨床現場での実習で看護学生として実践することを意識してください。人に援助する実践ですので、形態機能学の基本的知識、価値観や快適さの多様性を含めて、学内外問わず教材はたくさんありますので、学習機会として捉えてください。			

	<p>以下は、看護技術論演習と同様に必要なことです。</p> <p>本科目は、講義の他に看護技術の実技演習を含む授業内容となっています。講義前には、①シラバスで学習項目と行動目標を確認し、該当する部分の教科書に目を通しておく、②演習項目については、看護技術の動画視聴で事前にイメージして臨み、わからない点を明確にしておくようにしてください。授業後は、授業内容の振り返りとともに、技術は、根拠を踏まえて、繰り返し技術練習を重ねることで習得可能となりますので、学内外を問わず積極的に自己練習をすることを期待しています。</p> <p>また、科目で学修する内容は、看護学を学ぶ大学生として領域を問わず共通する基本的内容であり、学修の基本姿勢を学ぶ部分でもあります。授業を通して、①パソコンとインターネットを活用して、classroomのお知らせや資料の閲覧、動画の視聴ができるように準備すること、②レポートは、パソコンを使用して作成、提出できるように、基本的なレポートの書き方を学習すること、③感染症対策として、体温測定やマスク着用、手洗いなどを確実にやり、健康管理をすること、④看護を学ぶ自覚をもって、ふさわしい服装や身だしなみを整えて演習に臨むことを学び、実践してください。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系 看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護学技術 1・2(メジカルフレンド社)</li> <li>・新体系 看護学全書準拠 基礎看護学まとめノート(メジカルフレンド社)</li> </ul>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」(医学書院)</li> <li>・ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 (メディカ出版)</li> <li>・深井喜代子編著:基礎看護技術ビジュアルブック 手順と根拠がよくわかる(照林社)</li> <li>・深井喜代子監修:ケア技術のエビデンス(1)(2)実践へのフィードバックで活かす(へるす出版)</li> <li>・大久保陽子編:日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護 形態機能学の枠組みを用いて</li> <li>・藤本真記子ら監修:看護技術がみえる① 基礎看護技術(メディックメディア)</li> <li>・佐藤久美ら監修:看護技術がみえる② 臨床看護技術(メディックメディア)</li> <li>・山口瑞穂子編著:看護技術 講義・演習ノート 第2版 上巻 日常生活援助技術編(サイオ出版)</li> </ul>
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	<p>みなさんは、日常の生活の中で当たり前朝起きて顔を洗い、歯を磨き、食事をして、排泄を済ますこと、外に出かけたり、お風呂に入り着替えて眠ることを繰り返して生活していることと思います。この半ば無意識的に営んでいる「自分で思い通りに身体を動かして生活行動をとる」ことが、疾病や怪我などによりうまくいかないとその人の生活の質が一変します。看護は対象である生活者としての人に関心を寄せ、関わることで生まれること、看護を行うためには、心(態度)と頭(知識)と手(技術)が必要があることは、前期で学修されました。この科目では、日常生活で行っている自分の当たり前の行動にも目を向けてもらい、自分ではうまくできない人にどのように援助することができるかについて考えていきます。そこには、原理に基づく具体的なひとつの方法を通して、みなさんがどのように看護について考え、援助を行うかという、心(態度)と頭(知識)と手(技術)を意識的に洗練させていくプロセスが必要です。1回の学修内容は非常に幅広く奥深いのも本科目の特徴です。1回だけの実習室での演習では限りがあります。ぜひ、関連科目の学修内容も取り入れて、積極的に学修をしてください。</p>
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	<p>《達成度評価に関するコメント》</p> <p>評価は、筆記試験、レポート以外での提出物(講義の予習・復習課題や看護技術の演習記録)、その他(授業及び演習時の態度・参加の姿勢、事例を用いた看護技術の実践)により総合的に評価します。</p> <p>【筆記試験】定期試験で60%評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験は講義内容を基本に、看護師国家試験問題も取り入れながら出題します。様々な方法を用いて出題します(例:記述式、括弧埋め、○×式、など)。</li> <li>・簡単な事例を読んで、自分が行う看護について知識を用いて論理的に説明する試験も出題します。</li> </ul> <p>【レポート以外の提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の予習・復習課題や看護技術の演習記録として、配付した課題用紙に書いて提出したものを20%で評価します。</li> <li>・提出日時を厳守して下さい。提出は必須で遅れ・未提出は減点としますので注意してください。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例を用いた看護技術の実践は20%で評価します。</li> <li>・授業及び演習時の態度、自己練習の取り組み、身だしなみの適切さは減点として評価に加えます。</li> </ul> <p>《課題に対するフィードバック》</p> <p>定期試験までに返却します。</p>

